



ゲム村にコミュニティセンターを

建設しよう！

アサンテナゴヤ理事 内海 眞

アサンテナゴヤのメンバーの幾人かは、2000年からケニアの首都ナイロビにあるスラムでHIV予防活動(日米合同)を実践して来ました。2000年には25%であったスラムでのHIV陽性率が2007年には15%にまで減少しました。一方、この間のケニア全体でのHIV陽性率の推移は大きく見積もっても約2%の減少で、スラムではこの5倍の減少率が達成されたこととなります。この成果は日米の医療チームと現地NGOとの協働によってもたらされたものと考えられます。

2008年、我々の友人である讃岐さんから、ケニアの奥地でビクトリア湖の近くにあるゲム村はHIV罹患率が非常に高く医療支援を必要としている、との情報を得ました。我々はその地でHIV予防活動を開始しようと決断し、アサンテナゴヤを結成し2009年春にはゲム村に調査旅行に出かけました。ゲム村は電気もガスも水道もなく交通機関もない周囲から隔絶された村で、病人を病院まで運ぶ手段もありませんでした。そこで、まず車を送ろうと言うことになり、一宮中ライオンズクラブの全面的な支援のもとにハイエースを現地に届けました。2010年9月に行われた最初の無料医療キャンプでは5日間で約1000名の患者さんを診療し、約200名の希望者にHIV検査を実施したところ約23%の人々がHIV陽性と診断されました。HIV陽性と



診断された人々は現地NGOであるRUNELD (Rural New Life Development) のメンバーによるカウンセリングを受け、近隣の医療機関に紹介されます。近隣の医療機関と言っても車で40分から1時間ほどかかる距離にありますので、上述のハイエースが活躍することになったのです。

この地のHIV罹患率を低下させるには何が必要なかは明確であります。HIV/AIDS関連情報を住民に提供し病気の本態とその予防法を理解してもらうことと、HIV/AIDSに対する偏見・差別をなくし検査や治療を受けやすい環境を整えること、の2点であります。既に疫学的に証明されていることですが、治療は最大の予防策です。なぜなら、有効な治療はHIVの伝搬をブロックするからです。即ち、教育と検査・治療の日常的な実現が求められています。

教育と検査・治療をいつでも実施できるようにするためには、それを可能にする施設が必要

です。現在ゲム村にはこれを可能にする施設はありません。若者に対する予防教育、偏見をなくすための教育、HIV 関連の情報を有する書物・小冊子・映像などを用意できる教育施設が絶対に必要です。HIV/AIDS 関連の相談を可能にする機能もまた重要でしょう。RUNELD のリーダーであるメアリーは、3 年前からその設立を我々並びに村人に訴えて来ました。HIV 検査はゲム村では年に 1 回我々が行っている無料医療キャンプで受けることが出来ますが、普段は車で 40 分から 1 時間かかる施設まで出向かなくてはなりません。政府の巡回検診車はこの地にまでは来ないのです。簡単に HIV 検査が実施されることがこの村の HIV 医療の前進のためには必須の要件です。治療は抗 HIV 薬の投与になりますが、ケニアの地方ではナースや clinical officer が各地域の dispensary (小さな検査や診療を兼ねた薬局) やヘルスセンターで行っています。ゲム村にはこの機能を有する施設もないのです。教育と dispensary 機能を併せ持ったコミュニティセンターの設立が急務と考えます。



上記コミュニティセンターはゲム村の HIV 予防対策のシンボリックな役割も担うことになるでしょう。また、キャンプで HIV 陽性と診断された人々に対するカウンセリングの場所にもなります。毎年 9 月に実施される無料医療キャンプも現在はテントを張って行っていますが、センターが設立されればその施設を利用でき雨の日も診療が可能になるでしょう。センターが設立された後には、教育資材の投入、HIV やマラリアの検査キットや機器の配備、HIV 感染のター

ゲットになる CD4 細胞 (ヘルパーリンパ球) 数の測定装置の導入、薬とその貯蔵庫の用意、カルテの整備、近隣の医療施設とのネットワークの構築、診察室の整備、集会や講演を可能とする椅子や机の配備、等が必要になります。既に RUNELD のメンバーの 1 人 (メアリーの父) がコミュニティセンターのための土地を購入しました。ゲム村の人々もコミュニティセンター設立に向かって動き始めています。

では、建築費用はいくらくらいになるのでしょうか。メアリーのパパがいくつかの見積もり書を送って下さいました。それによれば、ざっと 500 万円から 1000 万円の間にあります。設計者はパパの親友だそうです。5 月 18 日の講演会では、アジア・アフリカで病院や学校をいくつも建てた経験のある吉田さんが、支援側はある程度の金額を提示しその範囲内で現地サイドが工夫して目的を達成するようにした方がいい、というお話をされました。そこで、アサンテナゴヤとしては 500 万円を募金することになり、RUNELD にはこの範囲で建物を建てるべく工夫をして欲しい、と伝える予定です。果たして 500 万円もの募金は可能でしょうか。私は可能と考えます。既に 300 万円の大口の寄付をいただいております。また、複数の方々協力して 100 万円を何とかしようと申し出て下さいました。5 月 18 日の講演会場では総額約 15 万円のご寄付をいただきましたが、数日後にさらに 5 万円のご寄付が届けられました。心から感謝申し上げます。アサンテナゴヤは毎年「ソロプチミスト名古屋一中」というボランティア団体から大口のご寄付をいただいておりますが、今年もその榮譽を受けることになりそうです。そうしますと、あと数十万円でコミュニティセンターの建設が実現可能になります。会員の皆様、もう一歩でございますので、どうか温かいご支援をお願い申し上げます。募金の詳細につきましては、本ニュースレターに挟み込みのチラシをご覧ください。

RUNELD という NGO は信頼に足るグルー

ブだろうか、という疑問をお持ちになる方もおられると思いますが、結論的に申し上げますと、信頼できると断定したくなります。今年も23名の人々が9月の医療キャンプに日本からケニアの奥地に向かいます。多くは複数回ケニアに行った人たちです。日本からゲム村までは片道30時間を超える旅です。さらに、現地でのスケジュールは過酷で、ほとんどが医療キャンプの準備と実施に費やされます。決して楽な行程ではありません。加えてキャンプの参加者は全員航空運賃を自己負担します。これほどの厳しいスケジュールと負担を強いられても、皆さんはケニアに行こうとします。何故でしょうか。それは、医療活動という目的に価値を認めることに加えて、RUNRELDのメンバーの素朴な人間性に惹かれるからであります。私自身は自分の人間性よりも圧倒的にRUNRELDの幹部の人間性に信頼を置きます。彼らに一年に一回会うこと



によって、自分の人間性が正されるのを感じます。自己中心性から他者中心性への修正です。前述の

ように、メアリーのパパは私財を投げ打ってセンターのための土地を購入しました。私たちもこれに続こうではありませんか。

先日「海賊と呼ばれた男」というノンフィクションを読む機会がありました。貧しい家庭に生まれた主人公は事業を始めるのですが、ある時ある篤志家が彼とその事業に対し大金をポンと与えるのです。彼はお金の使用制限も返済も全く要求しませんでした。なぜなら、篤志家は主人公の生き方に全幅の信頼を寄せていたからです。主人公はその篤志家の意思を活かし信頼に応えるために必死に事業に取り組み、ついには日本を代表する会社に育て上げたのです。篤志家の主人公に対する無条件の信頼こそが彼を駆り立てかつ努力させ、成功に導いたものと思われまます。我々は篤志家ではありませんが、おそらくRUNRELDのメンバーは上記ノンフィクションの主人公のように、我々の意思と信頼に全面的に応えてくれるものと信じます。

最後に、再度皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。私のお願いの文章を閉じたいと思います。

寄稿文

コミュニティセンター建設の意義

ルーネルド理事

ダグラス・オティエノ



我が国においてコミュニティ・ヘルス・センターは、医療の供給が不十分な地域において、治療費の支払い能力を問わず、全ての人たちに医療を提供してきた歴史があります。通例

としてセンターは、設立団体のメンバーと村人から選ばれたメンバーによって構成される委員会によって運営されますので、現場であるコミュニティの必要性に基づいた医療サービスが提供されます。こうしたセンターはケニア国内にあり、何百万もの人々に医療が提供されています。

こうした施設は質の高い医療を提供することに加えて、センターを建設すること自体が村を支援することになります。センターは農村や貧困地区の、医療が提供されていない低所得のコミュニティを選んで設立されます。そして、こ

うした地域では高い失業率と高い医療保険未加入率が見られることが調査によって明らかになっています。

医療の提供および地元の経済活動の活性化の両面において、センターが重要な役割を担うことを以下にご説明いたします。

§ コミュニティ・センターが提供すること

センターの目標は2つあります。

すなわち①ゲム・イースト村のほぼ全域の住民に医療を提供すること、②制御不能状態にある医療費を抑制することです。センターはこの2つの目標を達成するのに大いに役立つでしょう。建設予定地は低所得の農村で、そこでは医療が提供されていません。私たちは、ゲム・イースト村の最も困窮した人たちに医療を提供する手はずを早急に調える計画です。このセンターはプライマリー・ケア（一次診療）の強力な機能を持つことになり、それにより医療費全体を減少させることができます。

センターがコミュニティ内に生み出す経済効果については過小評価されがちです。新たな雇用や、場合によっては新たなビジネスが創出されることでしょう。

この農村基盤の患者主導のセンターは地域に密着しているため、地域の健康上の課題をより早く特定でき、地域に合った効果的な解決策をより早く講じることができます。課題の背景も理解することができるでしょう。このセンターは5000人以上の村人に医療を提供することになります。センターを設置する際は、以下の4つの基本原則を満たさなくてはならないことが法令で定められています。

1) 必要とされている場所に設置すること

医療が提供されていない地域とはすなわち、貧困率が高いこと、プライマリーケアがほとんど提供されていないこと、乳幼児死亡率が平均より高いこと、そして人口に老人が占める割合が高いことです。

2) 支払い能力によらず、万民に医療を提

供すること

センターでは誰もが医療を受けることができます。診療費は基準額は決まっていますが、収入に応じて調整される、変動制です。

3) 総合的な医療の提供

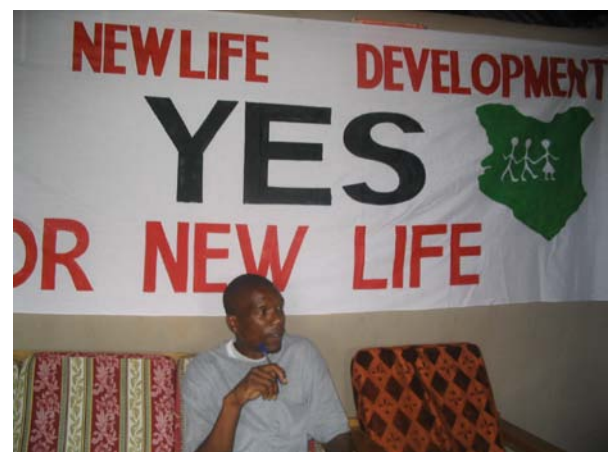
センターでは安価で幅広い内容の医療が提供され、地域の健康に寄与します。

4) 村人による運営

センターの委員会の過半数（51%以上）は、センターを利用する患者が占める。委員会はセンターの運営を監督する権限がある。

このように、センターがコミュニティとつながりを持つことが法制化されていることによって、センターは効率良く効果的に地域に奉仕することが可能になります。センターが誰のために、どこで、どんなサービスを提供するのか見てみましょう。

センターの目的と法令からお分かりになるように、センターが対象とする患者は、他の保健施設へアクセスすることができない人たちです。それはすなわち低所得、無保険者、出稼ぎあるいは季節農場労働者、ホームレスの個人あるいは家族などです。



・センターが設置される場所

センターはゲム・イースト村で最も医療が不足しているエリアに設置されます。貧困率が高く、経済不況の打撃を受け、孤立したエリアです。

・センターが提供するサービス

このセンターはあらゆる種類の医療関連サービスを提供することが求められています。

- 1) 栄養指導を含む支援サービス
- 2) 通訳サービス
- 3) ケアコーディネーションと疾病管理
- 4) 保健施設への交通手段の提供
- 5) 医療を受ける必要のある患者にこちらから働きかける活動

これらは文化的に適切な形で、そして多くの人が使う地元の言葉で医療が提供されることを意味します。

地域に根差した委員会のおかげで、センターは地域特有の課題に適合した形のサービスを提供できます。患者の健康増進に寄与するでしょう。

・経済活動と雇用

最初に、そして最も明らかなこととして、センターはコミュニティの人たちを直接雇用することができます。簡単な仕事を与えたり、職業訓練をしたり、他の地元の就職先を紹介することもできるでしょう。それから、センターは地元の企業から商品やサービスを購入します。事業規模が拡大すれば新しい施設も建設できるでしょう。新しいヘルスセンターとセンターのために設立された企業もまた新たな雇用を創出できます。センターの全ての出費と創出する雇用のすべてが地元経済に直接的影響を与えます。

センターの総支出は沢山のお金を生み出します。このお金は雇用を維持し、創出することにつながります。センターは地元コミュニティの人たちに 200 以上の雇用を創出します。それはセンターの建設工事によるものも含まれます。



センターが奉仕する地域への影響の全体像を把握するためには、こうした経済活動をセンター内部

で行われるものと、センターの外のコミュニティ全体で行われるものとに分類しなくてはなり

ません。センターは、波及効果を生じ、既存と新設の企業を刺激するエンジンのような役割を果たすでしょう。ですから、センター内の直接的な経済効果に加えて、センターは地元企業からの購買を通じて間接的な経済効果ももたすことができます。そうした直接、間接の効果により新たな世帯収入の増加がもたらされ、地元企業に対する出費となることもあるでしょう。

このように、経済効果はセンターの壁を越えて広がっていきます。センター内の直接投資と、その投資が地域に生み出す追加的な影響とに分類できるでしょう。

同様に、センター内では医療従事者と非常勤スタッフとで5人のフルタイムの雇用があります。センターの外でもいくらかの雇用があるでしょう。センター内での医療提供によって生まれた事業の結果として雇用が創出される間接的な効果もあるでしょうし、そこからさらに、世帯収入の増加の結果、地元事業が事業拡大することによる雇用創出もあるでしょう。

実際の経済活動は、センターのごく近くのエリアで主に行われることになるでしょう。

§ 結び

センターは、ゲム・イースト村の大多数の住民にとって、質の高い医療の供給源となるでしょう。センターが最も必要とされている質の高い医療サービスを供給できるということは明らかです。医療サービスに加えて、新たな経済成長と雇用という形の村への支援もなされます。ぜひともセンターに資本を投下して下さい。

アカウンタブル・ケア（責任をもって治療を行う機関）の主要な施設は、ゲム・イースト村のほぼ全域をカバーできます。センターは、ケニアの医療に対する政策の中で主要な役割を果たすものです。それに加えての経済効果が村の発展に役立つことも広く認められています。

この募金は、コミュニティセンターが、医療が必要な人々がまさに求めている時に、必要な医療を提供できるようにするものです。

活動予定

①アースデー飛騨高山 2013

日 : 6月8日・9日

会場 : 飛騨・世界生活文化センター

②第25回愛知サマーセミナー

日時: :7月14日 11:10~12:30

会場 : 南山高等・中学校 男子部

講座内容は・・・「アフリカの農村のくらし」



③2013年度無料医療活動 アフリカ、ケニア・GEM EAST 村

日時:2013年9月12日(木)~9月23日(月)

2013年度 アフリカ支援アサテンナゴヤ 無料医療活動 路程				
9/12 (木) エティハド 航空 EY889	21:25 発	中部国際空港		内海眞、内海大介、菱田、飯田、西尾 水谷、坂光、西、日比野、鈴木、奥村 丸山、加古、岩崎
		アブダビ	東京組 合流	石川博司、石川美里、渋谷、小林、仁科 森岡、古宮伸洋、古宮圭
9/13 (金)	13:55 着	ナイロビ着	到着後 薬剤受取	kenya comfort hotel
9/14 (土)		陸路 ベースキャン ンプキシへ	讃岐氏合流 準備日	Nyakoe hotel
9/15 (日)			準備日	
9/16 (月)	9:00-15:00	GEM 医療活動		
9/17 (火)	9:00-15:00	GEM 医療活動		
9/18 (水)	9:00-15:00	GEM 医療活動		
9/19 (木)	9:00-15:00	GEM 医療活動		
9/20 (金)	9:00-15:00	GEM 医療活動		
9/21 (土)	8:00 出発	陸路 ナイロビへ		医療廃棄物処理 kenya comfort hotel
9/22 (日) エティハド 航空	14:25 発	アブダビ経由		全員帰国
9/23 (月)	13:55 着	中部国際空港		

*2013年度無料医療活動 メンバー構成

医師 10名・看護師 3名・検査技師(獣医)1名・鍼灸師 2名・薬剤師 3名・スタッフ 4名

今年も歯科医師の参加が叶いました。

ゲムイースト村コミュニティセンター建設に向けて

平素は、私どもNPO法人アフリカ支援アサンテ ナゴヤにご支援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

2009年のリサーチの旅でケニア・ナイロビの奥地、GEM EAST村の人々と巡り逢って以来、2010年から3年間、GEM EAST村にて医療キャンプを続けて参りました。

その後、現地との交流を重ねこのたび、現地の人々が待ち望んでいるコミュニティセンターを建設する運びとなりました。

今年度の講演会は、海外での建設支援の経験が豊富な(株)現代建築研究所の吉田啓一様をお招きし、多数の方々のご参加のもと、下記の内容にて開催させていただきました。

日時：5月18日(土) 14:00~16:45

会場：名古屋都市センター(金山)14階 第1・第2会議室

講演：「HIV/AIDSの基礎知識」「ゲム村コミュニティセンター建設について」

アサンテ ナゴヤ理事 内海 眞

「アフリカの今ー建設支援の取り組み方から課題を探る」

(株)現代建築研究所 吉田 啓一

私どもは今後の取り組みに向けて多くのことを学ばせていただきました。私どもが、GEM EAST村で建設を計画していますコミュニティセンターは、現地の人々との協働でなされるものです。

吉田様のお話のように、現地の人々が本当に望むものを自分達で計画し、労力をつぎ込み、地域の人々のために自分達で管理していく、そのような形で進むように現地とのやり取りを綿密にしております。

現地は電気も水道もなく、医療の恩恵を受ける機会がほとんど無い所ですが、緑豊かな、子どもたちの笑顔がとても素敵な所です。現地の人々はコミュニティセンターの完成を心待ちしています。

講演会当日より、建設募金を開始させていただきましたところ、多数の方々から早速募金をしてくださいました。心よりお礼申し上げます。今後2013年8月末まで建設のための募金を続けて参ります。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。是非皆様方のお力をお貸しいただければ幸いです。



ご報告

- * **あいちモリコロ基金助成金 1,000,000 円 交付決定！！**
(1,000,000 円は全額、無料医療キャンプ費用として活用させていただきます。)
- * **認定NPO申請について**
今回は申請を取り下げました。認定NPOを取得する原理を再検討し、次回総会にて経緯をご説明する所存です。

* 会費、賛助会費、協賛金をいただいた企業・団体および個人（敬称略）

（平成 25 年 1 月 11 日から平成 25 年 5 月 31 日までにお志を賜った方を掲載しています。）

百合草宮子・加古美由紀・西いずみ・山田杏子・島谷倫次・山内礼子・木村満・中島知緒・熊谷里枝
A01 募金・新穂高ひがくの湯・石黒保美・高村幸子・野村浩子・鈴木千雄・岩崎奈美

募金の納付方法

郵便振替口座へのお振込みまたは現金にて承ります。

郵便振替口座 00850-8-123586

ゲムイースト村コミュニティセンター建設募金